

第 8 章 事後調査計画

(空白)

第8章 事後調査計画

8.1 事後調査を行うこととした理由

対象事業の実施による環境への影響は、環境保全措置を実施することにより低減されるものであるが、一部の環境保全措置については不確実性が存在することから、事後調査を実施する。

8.2 事後調査計画

8.2.1 工事の実施時

工事の実施時における事後調査計画は表 8.2-1(1)及び(2)に示すとおりである。

表 8.2-1(1) 事後調査計画（工事の実施時）

環境項目		保全措置の 効果	調査項目	事後調査の内容	
大項目	小項目			調査地点	調査時期及び調査方法
工事实施状況			工事計画、 工事方法、 環境保全措置の実 施状況	-	【調査時期】 建設工事中 【調査方法】 工事計画、工事方法、環境保全対策実施 状況の把握・集計、及び現地確認による 方法
大気 汚染	建設作 業粉じ ん	粉じんの発 生抑制	降下ばいじん	対象事業 実施区域 1地点	【調査時期】 土工事期間の建設機械の稼働台数が最大 と考えられる時期（30日間） 【調査方法】 ダストジャーを用いる方法
騒音	建設機 械騒音	騒音の発生 量の抑制	騒音レベル	敷地境界 3地点	【調査時期】 建設機械の稼働台数が最大と考えられる 時期（1日間） 【調査方法】 「特定建設作業に伴って発生する騒音の 規制に関する基準」に規定される方法
水質 汚濁	濁水	濁水の流出 の低減	浮遊物質 量	調整池 放流点 1地点	【調査時期】 土工事期間中の平水時及び降水時 （各1回） 【調査方法】 日本産業規格に規定される方法

表 8.2-1(2) 事後調査計画（工事の実施時）

環境項目		保全措置の 効果	調査項目	事後調査の内容	
大項目	小項目			調査地点	調査時期及び調査方法
植物・ 動物・ 生態系	陸上 植物	生育環境、 生育個体及 び個体群の 保全	ウスゲチョウジ タデ、コギシギ シ、カワヂシャ、 ミゾコウジュ	環境創出 箇所	【調査時期】 保全措置1年目及び3年目の適季 （春季、夏季、秋季） 【調査方法】 生育状況調査
	陸上 動物	生息環境、 生息個体及 び個体群の 保全	コウフオカモノ アラガイ	環境創出 箇所	【調査時期】 保全措置1年目及び3年目の適季（初夏 季、秋季） 現地調査確認時期 【調査方法】 生息状況調査
	水生 生物	生育環境、 生育個体及 び個体群の 保全	シャジクモ、カワ ヂシャ	環境創出 箇所	【調査時期】 保全措置1年目及び3年目の適季 （春季、夏季） 【調査方法】 生育状況調査
			生息環境、 生息個体及 び個体群 （在来個体 群）の保全	ミナミメダカ	環境創出 箇所、対象事業実 施区域及びその周 辺
		生息環境、 生息個体及 び個体群の 保全	コガムシ	環境創出 箇所	【調査時期】 保全措置1年目及び3年目の適季（夏季） 現地調査確認時期 【調査方法】 生息状況調査
			ヒラマキミズマ イマイ、ヒメヒラ マキミズマイマ イ	環境創出 箇所	【調査時期】 保全措置1年目及び3年目の適季（初夏 季、秋季） 現地調査確認時期 【調査方法】 生息状況調査
	生態系	地域生態系 の生物群集	生物群集	環境創出 箇所	【調査時期】 保全措置1年目及び3年目の適季（夏季） 【調査方法】 生息・生息状況調査
	環境 負荷	廃棄 物・発 生土	再資源化の 促進	廃棄物の発生量、 資源化量及び処 分量	
地域 交通	資機材 の運搬 車両の 走行	地域交通 への影響の 低減	交通量、 渋滞長、滞留長	交差点 2地点	【調査時期】 資機材の運搬車両が最大になる時期 （平日1日、1回） 【調査方法】 カウンター計測等の現地確認による方法

8.2.2 施設の存在及び供用時

施設の存在及び供用時における事後調査計画は表 8.2-2(1)～(3)に示すとおりである。

表 8.2-2(1) 事後調査計画（施設の存在及び供用時）

環境項目		保全措置の 効果	調査項目	事後調査の内容	
大項目	小項目			調査地点	調査時期及び調査方法
事業の実施状況			施設計画、施設の稼働状況 環境保全対策実施状況	-	【調査時期】 施設が定常的に稼働している時期 【調査方法】 施設計画、環境保全対策実施状況の把握・集計、現地確認による方法
大気汚染	ばい煙調査	排ガス中の大気汚染物質濃度の低減	硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素、水銀、ダイオキシン類	煙突（各炉）	【調査時期】 供用開始後の一定期間 ばい煙の測定 4回/年 （硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素） 水銀 1回/年 ダイオキシン類 1回/年 【調査方法】 サンプリング分析
水象、地盤沈下	地下水位	地下水位の低下防止	地下水位	対象事業実施区域内	【調査時期】 施設供用後 【調査方法】 自記水位計を用いたモニタリング観測

表 8.2-2(2) 事後調査計画（施設の存在及び供用時）

環境項目		保全措置の 効果	調査項目	事後調査の内容	
大項目	小項目			調査地点	調査時期及び調査方法
植物・ 動物・ 生態系	陸上 植物	生育環境、生育 個体及び 個体群の保 全	ウスゲチョウジ タデ、コギシギ シ、カワヂシャ、 ミゾコウジュ	環境創出 箇所	【調査時期】 供用時1年目の適季 (春季、夏季、秋季) 【調査方法】 生育状況調査
	陸上 動物		ニホンイタチ、カ ヤネズミ、ハイタ カ、フクロウ、コ シアカツバメ	対象事業 実施区域 及びその 周辺	【調査時期】 供用時1年目の適季(春季、夏季、秋季、 冬季) 現地調査確認時期 【調査方法】 生息状況調査
		生息環境、生 息個体及び 個体群の保 全	コウフオカモノ アラガイ	環境創出 箇所	【調査時期】 供用時1年目の適季(初夏、秋季) 現地調査確認時期 【調査方法】 生息状況調査
	水生 生物	生育環境、生育 個体及び 個体群の保 全	シャジクモ、カワ ヂシャ	環境創出 箇所	【調査時期】 工事中1年目の適季(春季、夏季) 【調査方法】 生育状況調査
		生息環境、生 息個体及び 個体群(在来 個体群)の保 全	ミナミメダカ	環境創出 箇所、対象 事業実施 区域及び その周辺	【調査時期】 供用時1年目の適季(夏季) 現地調査確認時期 【調査方法】 生息状況調査、DNA分析
		生息環境、生 息個体及び 個体群の保 全	コガムシ	環境創出 箇所、対象 事業実施 区域及び その周辺	【調査時期】 供用時1年目の適季(夏季) 現地調査確認時期 【調査方法】 生息状況調査
			ヒラマキミズマ イマイ、ヒメヒラ マキミズマイマ イ	環境創出 箇所	【調査時期】 供用時1年目の適季(初夏、秋季) 現地調査確認時期 【調査方法】 生息状況調査
		生態系		オオタカ、ヒバ リ、ニホンアマガ エル	対象事業 実施区域 及びその 周辺
	地域生態系 の生物群集		生物群集	環境創出 箇所	【調査時期】 供用時1年目の適季(夏季) 【調査方法】 生息状況調査

表 8.2-2(3) 事後調査計画（施設の存在及び供用時）

環境項目		保全措置の 効果	調査項目	事後調査の内容	
大項目	小項目			調査地点	調査時期及び調査方法
環境 負荷	温室効 果ガス 等	温室効果ガ ス排出量の 削減	温室効果ガス排 出量、発電量		【調査時期】 供用開始後1年間 【調査方法】 データの収集による方法
地域 交通	交通量	地域交通へ の影響の低 減	交通量、 渋滞長・滞留長	交差点 2地点	【調査時期】 廃棄物運搬車両の走行が代表的な時期 (平日1日、1回) 【調査方法】 カウンター計測等の現地確認による方法

8.3 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応方針

事後調査の結果、環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合は、その原因の解明に努めるとともに、中間段階にあっては、できる限りの改善を図る。

8.4 中間報告書及び完了報告書の作成の時期についての基本的な考え方

中間報告書の作成時期は、工事の中間段階にあたる時期（2028年頃）とし、完了報告書の作成時期は、工事が完了する時期（2032年頃）とする。